

「公設民営塾」秋期無料講習会を 開催しました

町では、来年度からの「公設民営塾」開設に向けて、「秋期無料講習会」を、若者交流センター「奥流」(徳山区)にて開催しました。

今回の講習会は、10月15日から11月17日まで、町内在住の中・高校生と島田市の川根中学校の生徒を対象に開講されました。91人の生徒が登録し、面談で個別のキャリアプログラムを決めた後、町が委託した講師3人による個別対応指導とタブレット端末を使用した最先端の映像指導を受けました。

また、塾の会場となっている部屋の隣には自習室が設けられ、利用した生徒が集中して自習に取り組む様子も見られました。

「公設民営塾」は町が開設し、来年5月からの本格開講を予定しています。今後、今回の受講生を対象にアンケート調査を実施し、要望や講師の意見を取り入れながら、この地域に合った公設塾の開設を目指していきます。



「出張コミュニケーションカレッジ in川根本町」を開催しました

10月14日・21日の2日間にわたり、山村開発センターと役場本庁にて「出張コミュニケーションカレッジ in川根本町」を開催しました。

町内および島田市川根町在住の20代から70代まで、延べ29名が参加し、地域におけるつながりづくりや、課題と魅力の洗い出し、地域づくりのアイディアを実現するための実施計画づくりに取り組みました。

講師は、NPO法人「コラボりん湖西」代表理事の神谷尚代氏と、NPO「サブライズ」代表理事の飯倉清太氏の両氏が務めました。お二人は、実際に県西部地区および東部地区のそれぞれの地域で地域づくり活動に取り組んでおられ、そのお話はとても力強く説得力のあるものでした。

参加者からは、「講義の中に活動に使えるヒントがあった」「とても楽しかった」「元気ももらった」など充実した声の一方で、「もっと多くの若い人たちにも、参加してもらいたかった」といった意見もありました。

今回の研修で作られた実施計画が、実際の地域づくり活動として実現され、町の魅力がさらに高まることに期待します。



が、私たちにできるのは目の前の小さなことから。

というわけで、空き家情報の収集や移住者向けの情報発信をコツコツとやっています。今はただのお節介ですが、ゆくゆくはこれを事業にしたいと思っています。

軒の空き家が新しい住民を呼び、地域に活力が生まれることだってあり得ます。私自身がそうであったように「よく来たね」と温かく迎え入れてくれる地域であれば、なおさらです。



千頭西・寺馬区の生涯学習で「川根茶染め」を行いました。素敵なお色に染まり、皆さんご満足!

その一方で「仕事さえあれば帰ってきたい、住んでみたい」と思う人がいるのも現実。その人たちの受け皿となる仕事が、この町にどれだけあるのでしょうか?

私たちは今、プロジェクトKという事業に携わっています。我が町にサテライトオフィスを構えたゾーホージャパンを中心に、静岡県、町役場、NPOなどのメンバーが町の未来を見据えて自分たちができることを考え、実践していくプロジェクトです。

この事業を通じて、ゾーホージャパンの地域貢献への姿勢、本気度を痛感。それだけこの町に可能性を感じてくれているのです。私たちもその想いを真摯に受け止めなければ!

会議室で話し合うだけでなく、各自がミッションを遂行すべく行動するのがプロジェクトKです。「人口減少を食い止める」という大きなミッションがあります

一般社団法人エコティかわね
川根本町桑野山424-6
電話:0547-58-7000
ファクス:0547-58-7001
E-mail:ecotkawane@gmail.com

エコティ日記

エコティかわね 事務局長 神東美希の

最近気になっていることの一つに「移住・定住」があります。私自身も移住者ですし、周りにも少しずつ増えています。知っているだけでも、飲食店、農家民宿、デザイナー、ヨガ講師、大工など、様々な職業の人たちが移り住んできました。通常、移住には「仕事と住居」という二大条件が立ちはだかるのですが、彼らは手に職を持っていて「仕事」という条件をクリアしています。

川根本町という地域に何らかの魅力を感じて、そこで「なりわい」を作るといったチャレンジ精神あふれる人たちの存在は、私たち住民に希望と刺激を与えてくれます。



神東美希 (かんとう みき)
平成24年5月から川根本町エコツーリズムネットワーク事務局を担当。平成28年4月から一般社団法人エコティかわねの事務局長として、エコツーリズムを核としたさまざまなまちづくり事業を展開。

川根のみきていが綴る「ブログ版 川根本町エコティ日記」<http://ecotkawane.eshizuoka.jp/>

動画 de 広報

消防団員対象の「地震対策研修会」を開催しました

町消防団は、9月から11月までの3カ月間、町内各地にて地震対策研修会(実技)を開催しました。

4回に分けて開催された研修会には、全分団から約230人が参加しました。

団員らは、島田消防署川根北出張所の消防士から、救助活動の手順や資機材の使用方法について指導を受けました。

倒壊家屋から住民を捜索し救助する訓練では、余震や二次被害を防ぐために監視役を設定することや救助者の物音を聞き逃さないように捜索中に「サイレントタイム」を実施することなど、実践的な手順を確認しました。また、チェーンソーや油圧ジャッキの適切な操作方法や、竹ざおと毛布を使った即席の担架の作り方と搬送方法なども学びました。

諸田環団長は、研修を振り返り「地域のために真剣に取り組む団員の姿に、頼もしさを感じた」と話しました。

